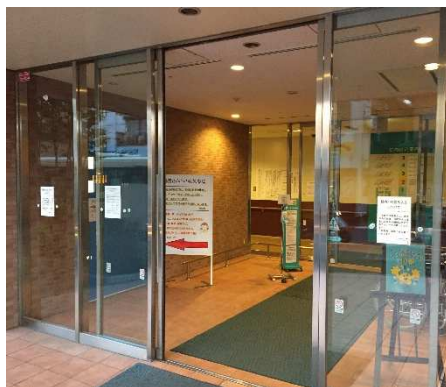


## 『流行期インフルエンザについて』 ～正面入り口に待機室を新設しました～

外来看護師長 後藤泰子

今年の冬も寒い日が続いています。そしてインフルエンザが流行っていますので、全ての方々がインフルエンザに注意する必要があります。

インフルエンザの症状には、急な発熱・からだのだるさ・節々の痛み、咳・のどの痛み、鼻水などがあります。それらの症状が出てしまい当院の外来を受診される際は、正面玄関入って直ぐ左側に待機室（感染疑い待合室）を新設しましたので、そちらでお待ちください。待機室の中に入り、インターホンを押しただけであれば直ちに受付係が対応させていただきます。



正面玄関



待機室入口

他の人への感染を防ぐため、そして薬が効きにくい（薬剤耐性）インフルエンザを作りださないために、来院時には以下の点にご協力下さい。

- 1.家を出る前に、マスクを着用して下さい。
- 2.待機室で待っている時、問診票に症状を記入して下さい。
- 3.インフルエンザと診断されて処方されたお薬は、症状が治まっても中断せず最後まで内服して下さい。

感染を防ぐポイントは、外出後の手洗い・うがい、お部屋を適度な湿度に保つ、十分な睡眠とバランスのとれた栄養をとる、ことです。さらに流行期にはマスクを着用し、人混みや繁華街への外出を控えましょう。予防接種をすると重症化を防ぐ効果があります。高齢の方や基礎疾患のある方は、医師にご相談下さい。

当院外来では、これからも患者さんに質の高い支援を提供できるように努力して参ります。ご質問やご意見がありましたら、お気軽にご相談ください。

なお、当院では昨年10月中旬に外来の処置室もリニューアルし、検査室と処置室の2つに分離いたしました。今までは、採血検査・心電図検査や体調不良の患者さんへの点滴などを1つの部屋で実施していましたが、一部の患者さんから「うるさい」「ごちゃごちゃしてる」などのご意見が寄せられていたためです。分離後、患者さんからは「前より静かになったね」とご好評をいただいておりますが、職員がバタバタしてご迷惑をお掛けしている時は、どうぞ遠慮無くご意見をお聞かせください。

## 『退院調整看護師について』

2025年、わが国は4人に1人が高齢者という超高齢化社会を迎えます。そして、在宅医療を必要とする患者さんが全国で29万人と推定され、現在から12万人増と予測されています。慢性疾患患者や高齢者人口の増加は、病気や障害を抱えながら自宅で暮らす高齢者が今後ますます増加していくことを示しています。このことから病院では、自宅や施設への退院調整の必要性が高まり、当院でも昨年10月より、地域連携室に「退院調整看護師」を専従で配置することと致しました。

「退院調整看護師」とは、病気やけがなどにより障害と向き合って生活していく患者さんをサポートするために、地域の社会資源やネットワークを有効活用し、医療機関や事業所などと連携して患者さんが安心かつ安定した生活を送れるよう、環境調整を行う看護師のことを言います。実際、病院は病気の検査、診断、治療を行うための場であり、生活の場ではないため、治療が終了したら退院し生活の場に戻るのは自然なことです。そして、本来は患者さん、ご家族の意向を尊重して、退院先を決定していかなければなりません。

しかしながら、医療者は、患者さんが入院したことで、筋力低下や環境の変化に伴う一時的な認識機能の低下をきたした場合は、自宅退院は無理なのではないかと考えてしまうことがあります。患者さんやご家族にとって、病気が完治しないこと、障害がありながら自宅で暮らすことは時に難しく、病気と共に生きていかなければならないことに直面した場合や、療養生活上で介護負担が蓄積している場合には、退院に対する不安が大きくなると思います。こうした状況の中で、患者さんが生活の場に帰り、安心して暮らしていけるようにするためには、病院と地域が連携をはかり、退院後の暮らしに向けたサポートを行っていくことが必要です。そのため、退院調整看護師が患者さん、ご家族の意向を確認し、できるだけ希望に沿った患者さんらしい生活の場を一緒に考えていきたいと思っています。



地域にお住まいの皆様によりよいサービスを提供していけるように、スタッフ一同、日々努力しております。退院先に不安をお持ちの方やお問い合わせなどありましたら、いつでもお気軽にご相談ください。お待ちしております。

地域連携室 副室長  
退院調整看護師 吉田 朋子  
直通電話 03-5888-2113

# 『白内障について』

眼科医師 大井 彩

白内障とは、眼の中のレンズである**水晶体**という組織が白く濁ったために、外からの光が眼の内へ十分入らなくなった結果、物が見えにくくなっている病気です。  
お年をとられたことが原因である**老人性白内障**が最も多いのですが、最近はアトピーや糖尿病、特殊な薬の影響、外傷などが原因で若い人の間にも増えています。

白内障の症状には次のようなものがあります。

- ・視力低下
- ・霧がかかって見える（霧視）
- ・まぶしい（羞明）
- ・片目で物が二重に見える

自覚症状の程度は、水晶体が濁っている部位と程度によって異なります。

老人性白内障では、混濁が水晶体の周辺部から始まるため初期には自覚症状が少なくあまり問題にはなりません、進行すると霧視や羞明を感じるようになります。

混濁が中央部にまでおよぶと視力低下が強くなり、明るい光が入って瞳が小さくなると見えにくく、日常生活が大変不便になったり、自動車の運転が危険になったりする場合があります。

白内障に対しては点眼薬や飲み薬もありますが、これは白内障の進行をある程度遅くさせるためのものです。一度混濁した水晶体を再び透明にすることはできません。

白内障が原因で生じた不快な症状（視力低下、霧視、羞明など）を改善させ、視力を取り戻すためには、**手術によって濁った水晶体を取り除き眼内レンズと交換する**以外には方法がありません。

手術は白内障以外の病気の有無、全身状態によって方法や時期を決めます。

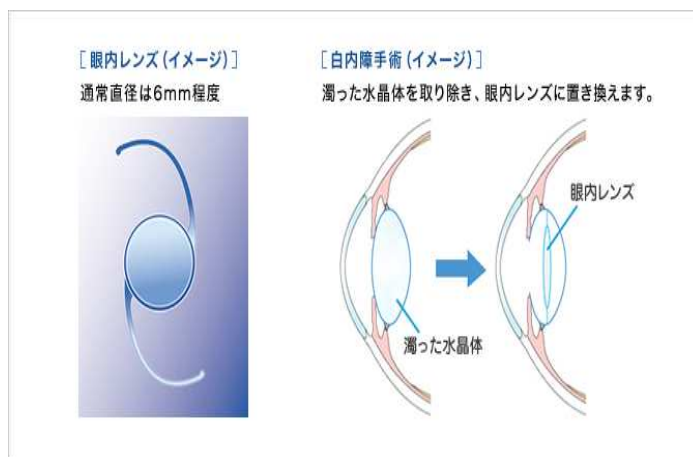
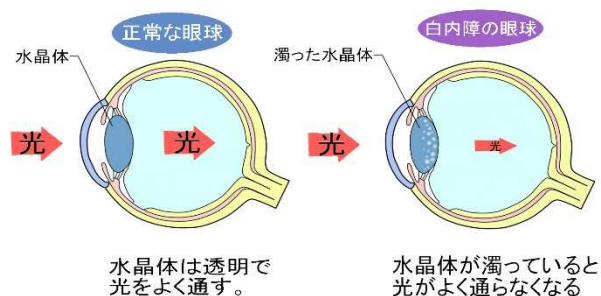
白内障を放置すると、水晶体が硬くなりすぎて手術が難しくなったり、水晶体が厚くなりすぎて緑内障になったりすることもあります。

手術はほとんどの場合、**局所麻酔**で行います。

濁った水晶体を砕いて取り出し（超音波乳化吸引術）、眼内レンズを入れます。  
症例によっては水晶体核を丸ごと取り出す（水晶体囊外摘出）、囊ごと取り出す（水晶体囊内摘出）こともあります。

術後に適切に通院でき、全身状態が良好な方は**日帰り手術可能**です。

いつでも当院眼科にご相談ください。



## 『手術室のご紹介』

手術室看護師長 金澤良子

当院では、昨年（2016年）427件の手術を実施しました。整形外科・消化器外科・呼吸器外科・泌尿器科・眼科で手術を実施しています。

手術室は2階にあり、月曜日から金曜日に予定の手術は行われますが、当院が二次救急指定病院ということもあり、予定していた手術の他に土曜・休日や夜間などの緊急手術にも対応できるよう、体制を整えています。予定外の手術でも患者さんに安心して手術を受けていただけるよう、執刀医・麻酔医・手術看護師・コメディカル（放射線技師や検査技師）が一丸となり、安全な手術室の環境作りに努めております。

手術は、患者さん・医師・看護師・コメディカルが一つのチームとなって取り組むものです。当院では術前に手術看護師が病室を訪問し、可能な限り患者さんに直接お会いして、お体の状態や手術に対しての患者さんの思いなどを聞かせていただいております。そこで得た情報を手術に関わるスタッフたちが共有し、より患者さんに合った手術環境を整えられるよう働きかけます。

できることなら手術をせずに病気を治したい。けれども病気を治すため、勇気をもって手術に臨まれる患者さんに寄り添い、その気持ちに応えられるよう努めてまいります。

どうぞ病気や手術に対する不安な気持ちや疑問などがありましたら、遠慮なくお聞かせください。



いずみ記念病院 : 03-5888-2111

訪問リハビリテーション : 03-5888-2125

いずみ通所リハビリテーション本木 : 03-5888-2128

いずみ訪問看護ステーション本木 : 03-5888-2121

いずみ居宅介護支援 : 03-5888-2124

いずみ訪問介護 : 03-5888-2126

医療介護相談室 : 03-5888-2113

介護老人保健施設いずみ : 03-5838-2277 足立区西新井5-35-2

入所相談・通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションも同様です。

詳しくは、ホームページをご覧ください。<http://www.izumikinen.or.jp>